

平成 29 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 29 年 9 月 25 日（月）

開会：午後 7 時 00 分 閉会：午後 7 時 55 分

場所：笛尾東 1 丁目集会所

参加者：男 8 人、女 4 人 計 12 人（うち職員 3 人）

町職員：町長、副町長、建設部参事、上下水道課長、町民課員、政策課員

○懇談

男性 1 水道の話ですが、員弁川が水源となるんですよね。

上下水道課長 員弁川から汲み上げているわけではなくて、北勢方面で降った雨が員弁川を向いて寄ってきます。員弁川の下に流れてくる水を、上流で汲み上げていて、員弁川から直接というわけではないんです。

男性 1 ちょっと心配するのは、上流にいなべ市もあるし、住所が沢山あります。そういうところも同じように汲み上げていることで、水源が枯渇することはないかということ、そのための単価というのは、あるんでしょうか。

上下水道課長 地下水は汲み上げるのは自由です。上流で大量に汲まれたら枯渇してしまいますので、水源保護地域というのを東員町全域に指定しています。いなべ市も全域に指定していただいております。いなべ市も同じように地下水ですので、みんなで守ろうと、今ずっと監視していますが、問題がおこりそうになれば、当然、東員町もいなべ市も含めて全域で守っていかなければならぬ、そのための水源保護条例を指定しています。

女性 1 個人的な質問なのですが、トイレの水漏れがあって、業者に修理をお願いしたのですが、直した後も水道料金が同じ値段なんです。水漏れがなくなった分少しでも安くなるのかなと思ったのですが。

上下水道課長 水道の使用量が 2 カ月で 20 m³ より少ないと、料金は変わってきません。詳しいことは、お問い合わせしていただくと、使用量や料金をお調べできますので、上下水道課に来ていただくが、お電話で問い合わせていただきますよう、よろしくお願いします。

男性 2 資料のグラフをみると、平成 32 年度に料金の見直しをすることですが、平成 32 年以前のデータの収支を比べたときには、以前は収入のほうが多くて支出が少ない

ということですが、以前の差額について、水道事業のために貯蓄か何をされていて、それも含めて考えられたものなんでしょうか。

上下水道課長 水道会計は一般企業と一緒に、内部留保資金、貯金が、7億弱あります。しかし、災害等に備えて東員町の規模からいくと、3億くらい内部留保資金がないと、災害があったときに対応ができないので、3億は残す計算はしています。もう一つ、定期のような、建設改良積立金が1億5,000万くらいです。今借金もありますので、借金を返していくための減債積立金が1億3,000万円くらい、これも貯金しています。留保資金も使いながら、単年度で支払うのではなくて、長期に水道を使っていただきますので、借金をしながら、なお且つ17%料金水準が上昇しますということになります。料金を改定せずに、7億ほどの内部留保資金を使っていくと、平成41年くらいに、留保資金もマイナスになってしまいます。今の資金をいかに効率的に使っていくかも含めた計算をして、17%という計算をさせていただいている。

副町長 よろしかったでしょうか。他に何かございますか。

それでは少し時間がありますので、建設参事の方から、新しい産業について今色々なことを考えていますので、少し紹介させていただきます。

建設参事 町長のほうからご説明をしましたが、東員町の面積は小さくて、これ以上企業を誘致する場所もないというところでございまして、これから東員町が持続的に続いていくためには、今ある土地をどうやって活用していくかという中で考えますと、やはり農地しかないんです。この農地で今行われている農業は水田を活用したもので、米、麦、大豆が主流です。この米、麦、大豆というのは、東員町全体で700ヘクタールありますが、3億7,000万ほどしか稼いでいません。非常に収益性のうすい農業です。この農業を何とかして儲かるようにしていこうというのが一つの狙いで、この農業を儲かる農業に変えることによって、収益を上げる、そして雇用も進んでいくことを目標に、新産業プロジェクトに、今年度から取り組んでいこうということでございます。

また、3年前になりますが、なかなか農業形態が変わりませんので、手本になるような農業を町でやっていこうと、ブドウとブルーベリーの栽培を始めました。今年初めて果実を収穫することができ、三和幼稚園みなみ保育園の親御さんにも摘み取りの体験をしていただきました。大変好評で、スーパーで売っているものよりも美味しいというお声もいただきました。今年は収量が少ないので、洋菓子屋さんに持ち込んで、東員町の特産品として売れるように試作をしていただき、すぐにでも商品として売れるような試作品を作っていました。この東1丁目からはアントニオさんが近いですが、来年はお店で、東員町産のブルーベリーとブドウを使った洋菓子を食べていただきたいと思います。また、お店では、ほとんど果物については外国産を使っていると聞いています。東員町で採れたブドウ、ブルーベリーについてはそこで使っていただくことにもなっていますので、ぜひご購入をいただいて、消費にご協力をいただ

ければと思っています。今年色々と東員町へ入っていただく企業さんや若い農業者さんを対象に、ブドウ、ブルーベリーを広めていきたいですし、また他の作物についても特産品となるようなものを作りたいと考えております。またそれが身になりましたら、町内で販売させていただきたいと思いますので、地元で消費していただきますよう、ご協力をいただきたいと思います。

水田農業につきましては、減反制度の関係で、米から大豆に、150 ヘクタールが削減されています。減反で国から補助金がありますので、あまり真剣に大豆を作っていないという現状から、全国平均の 3 分の 1 以下の収穫となっております。ここに目をつけまして、大豆を全国平均並みにしなければならないということが一つと、大豆の加工製品で実績のある企業が四日市市にございます。普通、大豆から豆腐を作るとおからが出ますが、この会社の製法ではおからが一切出ない、大豆を丸ごと使い、大豆の栄養価が全部詰まったものができます。この企業に東員町に来ていただけないかという話ををしていまして、東員町産の大豆で色々な製品を作り、売り出していきたいと考えています。そこにはまた雇用も発生します。そういったことで、東員町の地域資源である農地、農業を活用して東員町の将来につなげたいと思っていますので、ご協力をお願いします。

・懇談による意見

1. 水源地について
2. 宅内の水漏れについて
3. 水道事業の収支について